

2021 年度 研究所活動報告

研究会

「未来を創る「主体的な学び」を実践する～Future Skills Project 研究会の挑戦～」

2021年6月18日、一般社団法人Future Skills Project 事務局長の平山恭子氏をお招きして、オンライン研究会を開催いたしました。

同団体では、学生の主体性を引き出すため、10年にわたり企業と大学による産学連携の課題解決型のキャリア教育を実施しており、授業・講座への参加を通じて、学生の大学における学びへの意欲や取り組み方が大きく変わることをご紹介いただきました。

教職員との質疑応答も活発に行われ、教育のあり方を考える貴重な機会となりました。

研究会

「ダイバーシティ経営の効果を高める人事管理制度」

2021年9月16日、法政大学キャリアデザイン学部の武石恵美子教授をお招きして、オンライン研究会を開催しました。

企業でダイバーシティ経営が推進されるなか、職場に与える影響、従業員自律型のキャリア支援の仕組みなどについて、最近実施された2つのアンケート調査の分析結果をご紹介いただきました。

質疑応答では日本型人事制度との関連なども議論され、多くの参加者と活発な意見交換が行われました。

研究会

「ハローワークから見た女性の中途採用について ～マザーズハローワークおよび人材確保対策事業の取組～」

2021年10月29日、東京労働局職業安定部職業安定課の鈴木玲子氏をお招きしてオンライン研究会を開催いたしました。コロナ禍の影響を受けた昨年から今年にかけての雇用情勢の変化や、女性の中途採用に見られる特徴に関してデータを用いたお話をいただき、さらに人材確保支援対策事業の取組等についてもお話いただきました。

また、池袋ハローワークの小泉統括及び田中事務官のご登壇もいただき、池袋ハローワーク内のマザーズコーナーにおける職業相談状況や、事例のご紹介、オンライン化の取組等についてご説明いただきました。

参加者との活発な意見交換も行われ、特に、様々な工夫された取組みが今後普及啓発を通じ広まることが望まれるといった声が多くあがりました。

研究会

「平塚らいてうのまなざし」

2021年11月19日、本学名誉教授の倉田宏子先生をお招きしてオンライン研究会を開催いたしました。本学卒業生である平塚らいてうの軌跡をたどった後に、女性による初の文芸雑誌『青鞥』とその主張、成瀬仁蔵先生から受けた影響、母性保護論争や「新婦人協会」運動、戦後の平和運動に至るまで、らいてうの生涯にわたる思想と運動についてお話をいただきました。参加者との質疑応答では多くの意見や質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。

研究会

「リカレント教育の現状」

2022年2月28日、リカレント教育研究家の乾喜一郎先生をお招きしてオンライン研究会を開催いたしました。社会人において、自発的学習者が少ない実態や、裾野を広げていくための実践的な事例を含めた取り組み等について、ご講義いただきました。また、昨今、注目されているリカレント教育やリスクリングの定義等についてもご説明いただきました。限られた時間ではありましたが、参加者からの質疑応答も活発になされ、リカレント教育の今後のあり方に関する議論が展開されました。

ワークショップ

社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ

現代女性キャリア研究所では、2012年から2019年まで、毎年学内の学生・教職員を対象として「社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ」を開催していましたが、残念ながら昨年度及び一昨年度はコロナ禍により開催を見送りました。2021年度は、参加可能人数を減らしたり、間仕切り（パーティション）を設置するなど、対策を十分に取しながら、メディアセンターのご協力も得て、開催いたしました。

講師を務めていただいているニッセイ基礎研究所の金明中先生には、SPSS基本操作からデータの加工などの基礎知識、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析など基礎編と応用編を計4日（2022年3月7日（月）、8日（火）の基礎編と9日（水）、10日（木）の応用編）にわたって実践的学習を含んだ講義をいただきました。参加後のアンケートの満足度も高く、2021年度も大変好評なワークショップとなりました。



2021 年度 彙報

◆研究事業

・2021 年度における傘下研究事業は以下のものである。

- (1) エイジフレンドリーシティの組織・施策・運営に関する国際比較研究（増田 幸弘）
- (2) WHO 国際ネットワーク参加自治体間における高齢者福祉政策の相互学習の比較研究（増田 幸弘）
- (3) 家族・家計経済研究センター（永井 暁子）

・独自研究事業の進展

- (1) 昨年に引き続き女性起業家調査、中小企業における働き方事例調査をそれぞれ進めた。企業調査事例集の作成・RIWAC ホームページに掲載を行った。
- (2) 「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集及び書誌データ（RIWAC・DA）の拡充を図った。
- (3) 文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」
「ポスト・コロナにおける企業とのコラボレーションによるリカレント教育普及啓発事業」（坂本 清恵）

◆教育支援

- ・教養特別講義 2 の講師選定、及び同講義の課題図書選定を行った。
- ・資料室における図書・雑誌資料等の閲覧提供を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会、ワークショップなどを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

(1) シンポジウム

第 3 回「女性のためのリカレント教育推進協議会」シンポジウム
コロナ時代の女性の就労とリカレント教育（大同生命保険株式会社寄附）

【講演】「雇用流動化と働く人の「ボイス」」

中村 天江（（公財）連合総合生活開発研究所 主幹研究員）

「ジェンダー平等の推進とリカレント教育」

矢島 洋子（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（株）執行役員）

【パネルディスカッション】コーディネーター 矢島 洋子

パネリスト：中村 天江、船越 伴子（関西学院大学）、井田 正道（明治大学）、
加藤 千恵（京都光華女子大学）、坂本 清恵（現代女性キャリア研究所長）

2021年12月18日 10時～12時15分 オンライン開催

(2) 研究会

「未来を創る「主体的な学び」を实践する～Future Skills Project 研究会の挑戦～」

講師：平山 恭子（一般財団法人 Future Skills Project 事務局長）

2021年6月18日（金）15：00～17：00 オンライン開催

研究会「ダイバーシティ経営の効果を高める人事管理制度」

講師：武石 恵美子（法政大学教授）

2021年9月16日（木）15：00～17：00 オンライン開催

研究会「ハローワークから見た女性の中途採用について
～マザーズハローワークおよび人材確保対策事業の取組～」

講師：鈴木 玲子（東京労働局職業安定部職業安定課）

2021年10月29日（金）15：00～16：30 オンライン開催

研究会「平塚らいてうのまなざし」

講師：倉田 宏子（日本女子大学名誉教授）

2021年11月19日（金）15：00～16：30 オンライン開催

研究会「リカレント教育の現状」

講師：乾 喜一郎（リカレント教育研究者）

2022年2月28日（月）13：00～14：30 オンライン開催

(3) SPSS ワークショップの開催

講師：金 明中（ニッセイ基礎研究所）

2022年3月7日～10日 13：00～16：00

百年館低層棟4階コンピューター演習室1

◆研究所発行物

- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第13号
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.13
- ・企業調査事例集
- ・「コロナ時代の女性の就労とリカレント教育（大同生命保険株式会社寄附）」報告書

『現代女性とキャリア』 投稿規定ならびに執筆要項

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

【投稿規定】

1. 本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年一回発行とする。
2. 投稿資格は問わない。
3. 投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
4. 投稿論文及び研究ノートは編集委員会が受理した後、査読委員の審査を受け、掲載の可否が決定される。
5. 投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
6. 投稿者は原稿2部（氏名・所属入り1部、氏名・所属なし1部）を2月末日（当日消印有効）までに、編集委員会事務局に郵送で提出する。期日までに郵送されなかった原稿は一切受理しない。
7. 原稿は執筆要項にしたがって、必ずパーソナル・コンピュータの文書ソフトで作成する。
8. 投稿者は、査読結果返送用の封筒（A4判が入る大きさの封筒に、返送先住所氏名を明記。切手は不要）、および以下の事項を記した別紙を、投稿原稿と一緒に編集委員会事務局に郵送で提出する。また、別紙の内容を投稿と同時に電子メールの本文に記して編集委員会事務局に送信する（添付ファイルは不可）。
＜別紙記載項目＞
 - ① 氏名（ふりがな）、ローマ字表記
 - ② 住所・電話番号
 - ③ 所属・職名
 - ④ 論文のタイトル
 - ⑤ 投稿の種別（論文／研究ノート）
 - ⑥ 電子メールアドレス
9. 掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付するか、内容を保存した電子媒体（CD-ROM等）を指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。
10. 論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
11. 本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報レポジトリ上で電子化・公開される。
12. 本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

【執筆要項】

提出する原稿の形式は、以下の通りとする。

1. 執筆の形式

(1) 日本語表記とし、A4判用紙を使用し、40字×40行、フォントは10.5明朝（章・節・項はゴシック）と設定し印字する（縦書きを希望する場合は要相談）。

(2) 論文及び研究ノートは、

- 1) タイトル
- 2) 英文タイトル
- 3) 氏名、下にローマ字表記
- 4) 英文要旨（200語程度）
- 5) 英語キーワード3つ（日本語訳付）
- 6) 本文、図表等
- 7) 文末注
- 8) 文献
- 9) 所属

の順に構成し、総ページ数を論文は12ページ以内、研究ノートは10ページ以内とする。

3. 本文

(1) 本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

- | | | |
|-----|---|-------|
| 1. | } | 数字：全角 |
| (1) | | |
| 1) | | |

(2) 年号は西暦表記を基本とする。

ただし、必要に応じて「昭和50年代」などの和暦表記を用いる。

(3) アラビア数字やアルファベットは半角にする。

(4) ()「」『』等のかっこは全角にする。

(5) 句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「,」「.」を用いる）。

4. 図表等

(1) 図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

(2) 他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

(3) 図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例 図1、表1

図-1、表-1

5. 注記、文献

(1) 注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

(2) 引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。

② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、（著者名（姓）西暦発行年「：」ページ）を記して、文献リストの

該当文献の参照を指示する形式をとる。

- ③ 文献記載および配列の方法（形式）は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍：著者名，出版年，『タイトル-サブタイトル』出版社名。

・雑誌論文：著者名，出版年，「論文名」『掲載誌名』巻（号），掲載ページ。

・編書論文：論文著者名，出版年，「論文名」編者名『編書タイトル-サブタイトル』出版社名，掲載ページ。

・翻訳書：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社名。（＝出版年，訳者名『訳書タイトル-サブタイトル』出版社名）

・欧文書籍：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社。

・欧文雑誌論文：著者ファミリーネームファーストネーム他，出版年，“論文タイトル：サブタイトル”，掲載誌タイトル：サブタイトル，巻（号），掲載ページ。

- ④ 欧文の場合は書名・雑誌名をイタリック体にする。

- ⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を 2009a、2009b のように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所 現代女性とキャリア 第14号

2022年9月30日発行

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長 坂本 清恵

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel : 03-5981-3380 Fax : 03-5981-3381

発行 日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷 膳栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12
